

「議員と語ろう会」実施報告書

猟友会の皆さまにお時間をいただき、「議員と語ろう会」として意見交換を行いました。ニュースではクマの出没が大きく報じられますが、実際の現場でどのような判断が行われ、どれだけの準備や調整が必要なのか。

正直に申し上げて、知っているつもりでも、知らないことが多くありました。今回は制度の説明だけでなく、現場での対応や課題についても、率直なお話を伺いました。

●捕獲にはいくつもの制度がある

「クマを捕まえる」と一言で言っても、制度は分かれています。

- ・狩猟（趣味としての捕獲）
- ・有害捕獲（被害予防）
- ・緊急時対応（人命に関わる場合）

目的も手段も異なり、それぞれに条件や責任の所在があります。

とくに市街地での緊急対応は、行政判断や警察との連携が必要となり、簡単に動けるものではありません。

●檻を置くまでにも時間がかかる

目撃情報があっても、すぐに檻を置けるわけではありません。

- ・現地確認
- ・地区の了解
- ・地主の同意
- ・設置場所の選定
- ・周知（回覧など）

こうした手順を経て、ようやく設置となります。

また、むやみに檻を設置すると、餌によって別の個体を呼び寄せる可能性もあるとのことでした。

現場は、常に慎重な判断の連続です。

●担い手の減少と高齢化

猟師の人数は全国的に減少しており、高齢化も進んでいます。

銃の取得や更新には費用や手続きの負担があり、定期的な訓練も必要です。安全管理の厳格化は大切ですが、その一方で担い手が減少しているという現実もあります。

●情報の扱いの難しさ

目撃情報は重要ですが、誤報も少なくありません。

また、出没時に興味本位で現場に近づく行為は、危険を高めてしまいます。

クマは野生動物です。

「見てみたい」という気持ちが、思わぬ事故につながる可能性もあることを改めて感じました。

●環境整備の大切さ

不要果樹の管理、藪の整理、河川敷の管理など、環境整備が予防の基本であるという話もありました。

捕獲は最終手段であり、「いかに出没させないか」が本質であるという言葉が印象に残りました。

おわりに

猟友会の皆さまは、地域の安全を守るため、危険と隣り合わせで活動されています。

制度の難しさ、判断の重さ、住民対応の大変さ。

今回の意見交換で、その一端を知ることができました。

いただいたご意見は議会内で共有し、今後の議論につなげていきます。

貴重なお話をありがとうございました。